

正智深谷高等学校特別コラム

# Mind Charging

Since 2020

第269回

ヴィンス・ロンバルディ

の名言

発行：入試広報室

発行日：令和3年8月30日

編集委員：入試広報室 鈴木

## 今回の言葉

It's not whether you get knocked  
down; it's whether you get up.

打ちのめされたかどうかではなく、  
立ち上がったかどうかが大切だ。



ヴィンセント・トマス・ロンバルディは、アメリカ合衆国ニューヨーク州ニューヨーク出身のアメリカンフットボールコーチ。1959年から1967年の9シーズンに渡りNFL グリーンベイ・パッカーズのヘッドコーチを、1969年シーズンにワシントン・レッドスキンのヘッドコーチを務めた。

## Column

非常に厳しさを感じる言葉であり、同時に応援されていると感じる言葉でもあります。私自身、“打たれ弱い”と感じていて、これまで多くの方々の支えでなんとか立ち上がって今があります。打ちのめされたと感じている時は『こんな感情に耐えられる人っているのかな…』『なんで私ばかりこんな辛い事が起きるんだ…』と、自分を“世界一不幸な人”だと思ってしまいます。まさに打ちのめされていますよね。しかし、比較的落ち着いている時に自分の人生を振り返ってみて、一番に思い浮かぶことといえば“仲間に恵まれている”ということであり、抱く感情は“感謝”です。そうであれば打ちのめされた時に“困った時はお互い様”と真っ先に仲間の力に頼れば良いと思うのですが、打ちのめされた瞬間はネガティブな感情に心を占領され、何も手につかないというのが正直なところ。実は激しい動揺で覚えていないだけですぐに仲間にヘルプを出しているのかもしれませんが、おそらくそういった精神状態の時にどれだけの解決策を教えてもらったとしても即実行に移すことどころか、そのアドバイスを聞き入れることさえ難しいため、その瞬間には“正確な判断”はできず、立ち上がろうと心に決めるまでにしばらく時間を使ってしまうことがほとんどです。“時間が解決する”という言葉がありますが、改めてその通りだなと感じます。

私が立ち上がろうと心に決めた時、私の仲間は毎回歓迎してくれます。それは私が打ちのめされても必ず立ち上がると信じ、待っていてくれたということだと思います。みなさんの仲間はどうか？仲間と思う人たちですからもちろん仲が良くて信頼できる人たちだと思いますが、自分のことをしっかりと信じてくれる人たちですか？つまりいつでも置いていかずに立ち上がるのを近くで待っていてくれる人たちですか？そんな仲間を作りましょう。そうすれば打ちのめされることに恐怖感はなくなり、今まで以上に自分の可能性にチャレンジできると思います。最高の仲間を作ることは何度打ちのめされても立ち上がることができる強い自分になるための重要な“準備”のひとつではないでしょうか。

『私の強みは何度でも立ち上がらせてくれる最高の仲間がいることです！』と胸を張って言えるような仲間を正智深谷高校で作らしましょう！